

群 教 セ	G01 - 02
	平23.243集

文学的な文章の学習における 「言語活動単元プラン集」の作成と活用 ——叙述を基に想像して読む児童を育てる 国語科指導の充実を目指して——

長期研修員 今泉 優理

《研究の概要》

本研究では、小学校国語科の文学的な文章の学習における「言語活動単元プラン集」を作成した。このプラン集は、単元を貫く言語活動の設定のすすめ方、言語活動の例などを示し、文学的な文章について各学年2教材ずつの単元計画から構成した。このプラン集を活用することによって国語科の授業改善ができ、叙述を基に想像して読む児童を育てる国語科指導の充実のために有効であることを実践を通して明らかにした。

キーワード 【国語—小 読む 文学的な文章 言語活動 単元プラン集】

I 主題設定の理由

小学校において本年度から全面実施となった新学習指導要領では、各教科等において言語活動の充実が求められており、国語科においては、他教科の基盤となる言語能力を養うという重要な役割を担うこととなった。ただし、国語科は学習活動すべてが言語活動であることから、指導事項を身に付けさせるには、言語活動を単元を貫いて位置付ける必要がある。

一方、平成22年度全国学力・学習状況調査の群馬県の結果を見ると、小学校国語科では、文学的な文章に登場する人物相互の関係を正しくとらえることや物語の構成をとらえることに課題があることが分かった。人物相互の関係や物語の構成をとらえるには、登場人物の心情の変化を場面の展開に即して読み取ったり、各場面の関連や役割を考えたりするなど、文章全体の中で関連付けて読む力が必要である。こうした力が弱い原因の一つとして、授業において場面ごとに詳細な読みを繰り返してきたことが考えられる。場面ごとに読むことで各場面の内容の理解は深まるが、場面の移り変わりや登場人物の心情の変化については読み取りにくい。そのため、文章全体を関連付けて場面や登場人物の相互関係をとらえ、叙述を基に想像して読む力を児童に身に付けさせることは難しいのである。

単元を貫く言語活動を設定した授業改善が必要と言われているものの、学校現場では単元を貫く言語活動を位置付けた授業実践は少ない。特に文学的な文章の学習では、児童が学習課題を解決する過程となるような一貫した言語活動が設定しにくい。そのため、単元を貫く言語活動を位置付けた単元構想を具体化し、1単位時間の授業をどう展開し積み上げていくのかといった、単元構想から授業づくりまでをイメージできないようである。そこで、読む力の育成を目指した言語活動単元プラン集を作成し活用する。これにより、単元を貫く言語活動の設定の仕方が分かり、授業改善が図れると考える。児童が学習課題を解決する過程となるような単元を貫く言語活動を設定した授業を行うことで、児童は目的をもって主体的に読むことができるようになり、叙述を基に想像して読むことができると考えた。

以上のことから、文学的な文章を読むことの学習における言語活動単元プラン集を作成し活用することで叙述を基に想像して読む児童を育てる国語科指導の充実を目指したいと考え、本主題を設定した。

II 研究のねらい

文学的な文章を読むことの学習において、単元を貫く言語活動の設定の考え方を示し、その考え方を基にした単元計画、言語活動の例、資料編からなる「言語活動単元プラン集」の作成と活用を通して、叙述を基に想像して読む児童を育てる国語科指導の充実を図る。

Ⅲ 研究の内容

1 基本的な考え方

(1) 叙述を基に想像して読む児童について

文学的な文章を読む面白さは、文章から想像を広げて読んでいくことである。登場人物に同化し感情移入をしながら読んだり、登場人物の行動や会話だけでなく描かれた情景を想像し、情景と人物の心情を関連付けながら読んだりすることに面白さがある。文学的な文章は、場面が相互に関連しつつ一連のストーリーとして構成されている。場面の展開に即して出来事や登場人物の心情を読んでいくことは作品理解の上で大切なことである。したがって、一つの場面だけをその前後と切り離して読むのではなく、相互に関連付けたり、登場人物の相互関係をとらえ、それらに基づいて内面的な深い心情をとらえたり、さらにシリーズの他の作品や同じ題材の作品と結び付けて解釈したりすることでより想像が広がり、読みが深くなる。

よって、叙述を基に想像して読む児童とは他の情報との比較や関連付けによって叙述からイメージを広げたり読みを深めたりして自分の考えをもつことができる姿であると考えた。

(2) 「言語活動単元プラン集」の作成について

国語科の学習指導は、言語活動を通して指導事項を指導するものであることが小学校学習指導要領に明記されている。国語科の指導内容は、系統的・段階的に上の学年につながっていくとともに、螺旋的・反復的に繰り返し学習し能力の定着を図ることを基本としている。このため、年間を見通して単元の指導事項の重点化を図り言語活動を計画していく必要がある。

国語科においては指導内容を確実に身に付けるために、音読、話し合いなど言語活動をばらばらに並べるだけでなく、単元を貫く言語活動を位置付けることが重要である。特に「読むこと」においては指導事項に示す読むことの内容を確実に身に付けるため、従来の場面ごとの読みを改善する必要がある。言語活動を行う過程が児童にとっての課題解決の過程となるように単元を貫く言語活動を位置付けることが重要となる。単元を貫く言語活動を設定し、児童にとっての読む目的を明確にすることで、目的に応じて本や文章を選んだり、内容を的確にとらえたり、自分の考えをまとめて交流したりするなど、主体的な学習になる。これにより、叙述を基に想像し自分の考えをもって読む力が付くと考える。

そこで、文学的な文章の学習における「言語活動単元プラン集」では、単元を貫く言語活動の設定をすすめていく上での基本的な考え方を示す。さらに、主な教材の単元計画を載せたり、言語活動の例を示したりし、単元を貫く言語活動を設定した授業づくりの参考となるようにする。この単元プラン集を基にして単元を貫く言語活動を設定した授業を行うことによって、叙述を基に想像して読む児童を育てる国語科指導の充実を図りたいと考える

(図1)。

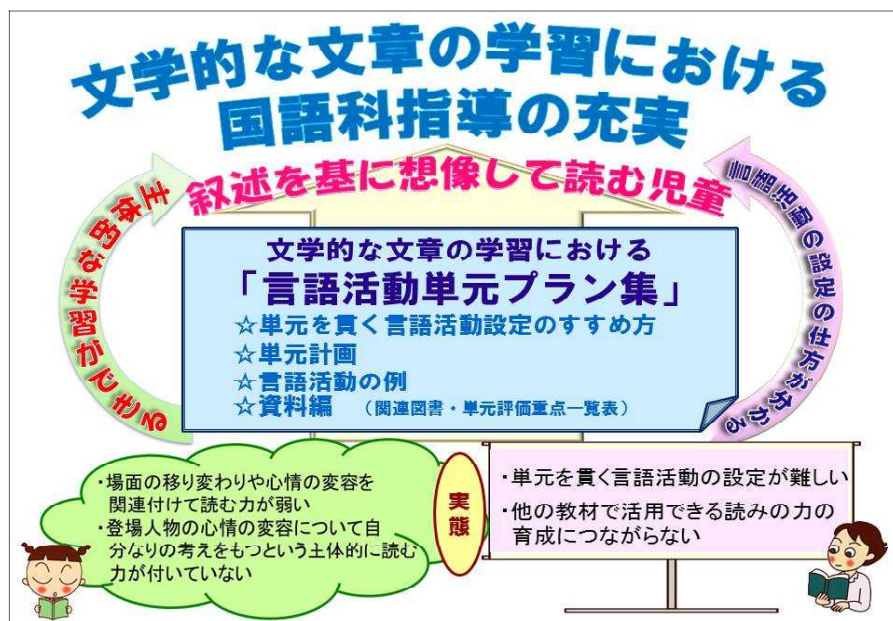


図1 研究構想図

2 「言語活動単元プラン集」の概要

言語活動単元プラン集は、図2に示すように、「単元を貫く言語活動の設定のすすめ方」・「単元計画」・「言語活動の例」・「資料編」で構成した。「単元を貫く言語活動設定のすすめ方」では、言語活動の設定の考え方を示し、その考え方に基づいて作成した「単元計画」を各学年2例ずつ載せている。教材は、複数の教科書に掲載されている作品を中心に取り上げている。「言語活動の例」や「資料編」には他の教材で言語活動を設定する際の参考になる関連図書や単元評価一覧表を載せている。

プラン集はHTML形式で作成し、単元評価重点表や単元計画などはそのまま活用したり、書き換えたりして活用できるようにPDF形式及びワープロ形式で作成し、CD-ROMに収録する。

(1) 単元を貫く言語活動設定のすすめ方

国語科では、言語活動そのものが学習過程となるため、単元を貫く言語活動を設定することが必要になる。

まず、国語科の言語活動の特徴を説明し、単元を貫く言語活動を設定する必要性について示す。

次に単元を貫く言語活動の設定をすすめていくための四つのステップ(図3)を示す。一つの教材を例にとり、四つのステップを基に設定のすすめ方について解説していく。他の単元でも、単元を貫く言語活動を設定した単元構想ができるようにしている。

(2) 単元計画

単元を貫く言語活動を設定した具体的な単元の指導計画を示した。単元の学習過程を三つに分け、第一次は「学習課題の設定」第二次は「教材文を読む活動」第三次は「学習経験を基に表現する活動」を基本とした。単元計画は、単元を貫く言語活動設定の四つのステップを踏んで作成している。

ステップ1として、まず身に付けさせたい言語能力を示す(次頁図4のA)。次にステップ2として、単元の指導目標を基にふさわしい言語活動を示し(次頁図4のB)、ステップ3として単元を貫く言語活動を一目見てどんな活動なのかが分かるように児童の学習課題の表現の仕方で示した(次頁図4のC)。さらに、教材に関連する図書名(シリーズ本・同じ作者の本・同じ主題の本等)を指導の参考になるように示した(次頁図4のD)。ステップ4として、単元の指導計画を示した。指導計画は、学習課題、主な発問、評価項目を示し、流れが分かるようにした(次頁図4のE)。

さらに、言語活動を行う上での留意点を吹き出しで示し、単元を貫いて言語活動をすすめていく上でのポイントを示している。

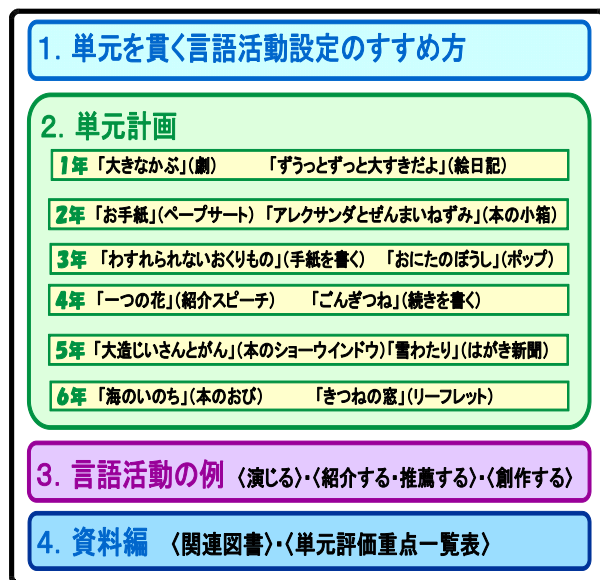


図2 言語活動単元プラン集 構成図

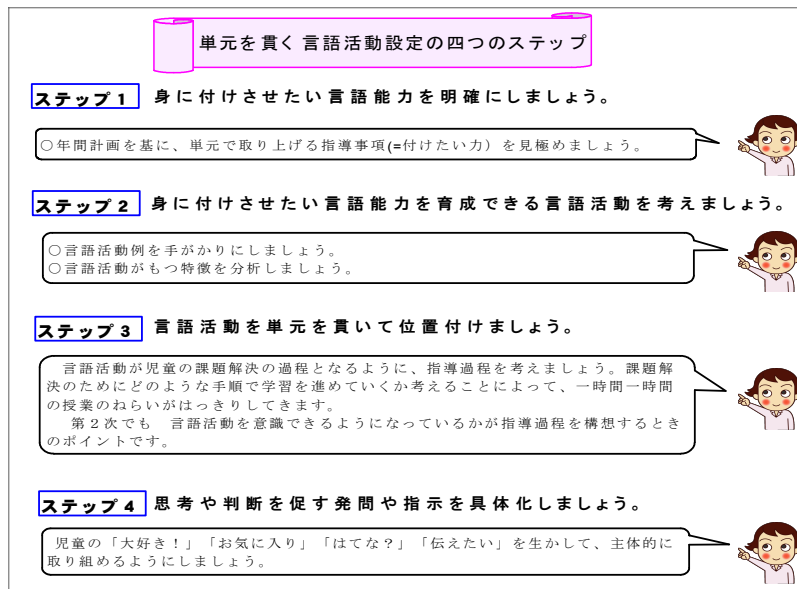


図3 単元を貫く言語活動設定の四つのステップ

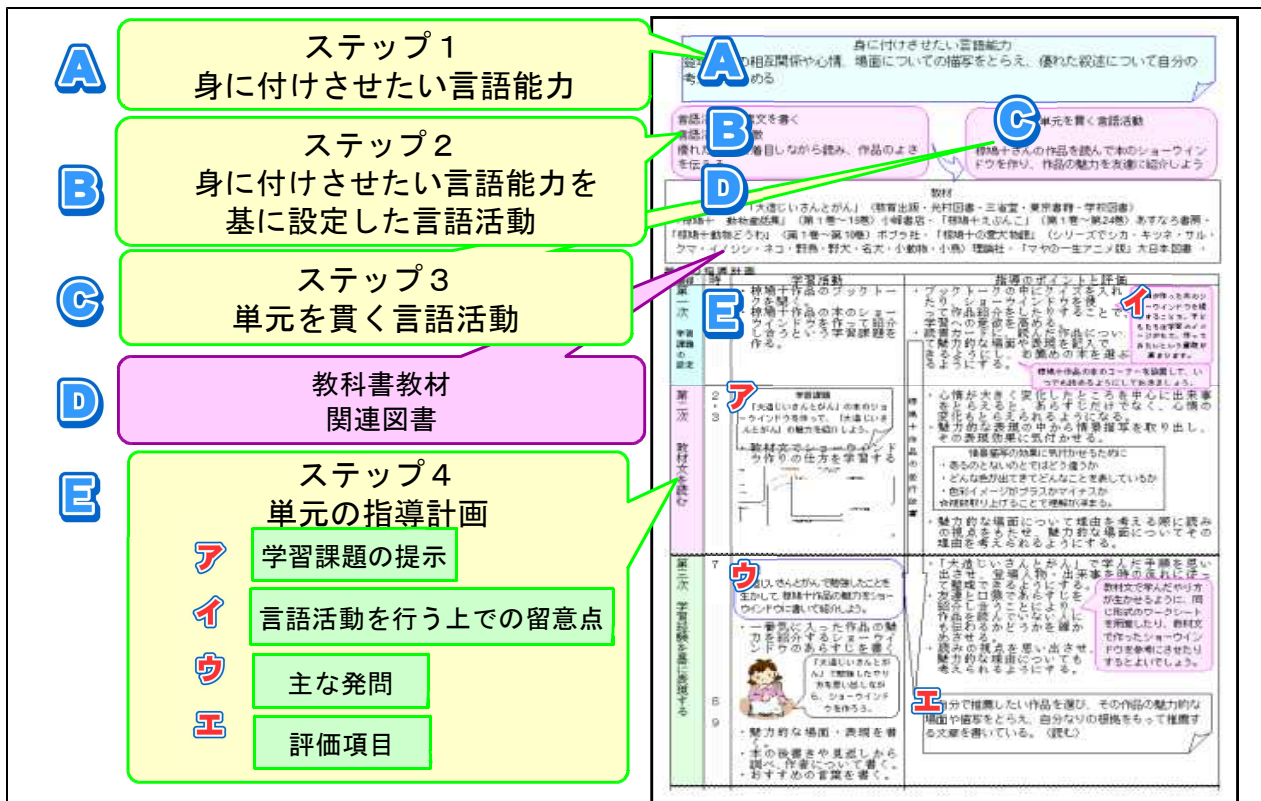


図4 単元計画の例(一部抜粋)とその解説

(3) 言語活動の例

単元を構想していくには、身に付けさせたい言語能力を育成するためにふさわしい言語活動を選択することが重要になる。学習指導要領の言語活動例を基に、「演じる」「紹介する・推薦する」「創作する」について具体的な言語活動を挙げた。さらに、言語活動の特徴を分析し、その言語活動でどのような力を身に付けさせやすいのかを表にまとめた。言語能力と関連させて言語活動を選択する際の参考となるようにしている(表1)。

(4) 資料編

資料編は、関連図書・単元評価重点一覧表からなる。

教材文を読むだけでなく、シリーズ本、同じ作者の本、同じ主題の本等を読むことで、共通性に気付いたり、新たな解釈が生まれたりする。教材に関連した図書を挙げ、指導の参考になるようにした。

国語科は、一つの指導事項を年間で複数回繰り返して取り上げて指導することが多い。そのため、年間指導計画を見通して当該単元の指導目標や単元の評価規

表1 言語活動の例(一部抜粋)

言語活動	身に付けられる言語能力
演じる	劇 登場人物になりきって動けます。登場人物の行動を動作化することによって心情や情景を想像しやすくなります。描写に動きのあるものはやりやすいです。 ペープサート 両面に登場人物の絵を描いて持ち手の棒などにつけて演じます。主にお話の筋に合わせて反転させて、お話や絵の変化などを楽しむものです。
紹介する・推薦する	本のおび 表紙・背表紙・裏表紙にそれぞれ推薦の言葉が書け、本に巻き付けて展示できます。三つの場所に書く内容を考えていることが紹介の観点を考えることにつながります。 ポップ キャッチコピーのように短い言葉で人を引きつけるために、紹介に必要な言葉を考えてながら読むことができます。 推薦文 感銘を受けたところはどこか、本を読むことによって自分の考えがどう深まったかを明確にすることができます。 読書ポスター 心に残った場面、言葉を絵と文で表現できます。どの部分を切り取るか考えることで引用・要約の力がつきます。 本のショーウィンドウ 魅力的な場面やあらすじなど項目ごとに書いていき、本を紹介するツールです。指導事項と関連させて、項目を考えるとよいでしょう。項目を変えることによってどの学年でもできます。 リーフレット 一枚紙のもの。二つ折り、三つ折りなど折り方を変えることで構成の工夫ができます。どのような項目にするかを指導事項と関連付けて考えるとよいでしょう。 パンフレット 複数ページに及びかつ簡易的に綴じられたもの。どのような項目にするかを指導事項と関連付けて考えるとよいでしょう。 ブックトーク ある一つのテーマに沿って数冊の本を順序立てて紹介する、図書の紹介方法の一つです。聞き手に、本に対する興味を起こさせる目的で行います。
創作する	手紙を書く 相手意識をもち、伝えたいことを明確にして書くために、どんなことを伝えたいかによって読みの観点を考えて読むことができます。 続きを書く 続きを書くために、場面や登場人物の設定、作者の書きぶりなどを考えながら読むことができます。

準を設定することが重要となる。年間の単元評価重点一覧表は、縦の列に指導事項等を入れてあり、横の列に単元名を記載できるようにしたものである。指導事項をマトリクスにすることで、既習内容の確認ができ、年間を見通して指導の重点化を図るために活用できるものとした。一覧表を基にして考えることにより全体を見通した上での重点を把握することができ、見通しをもった指導ができるようになるためのものである。

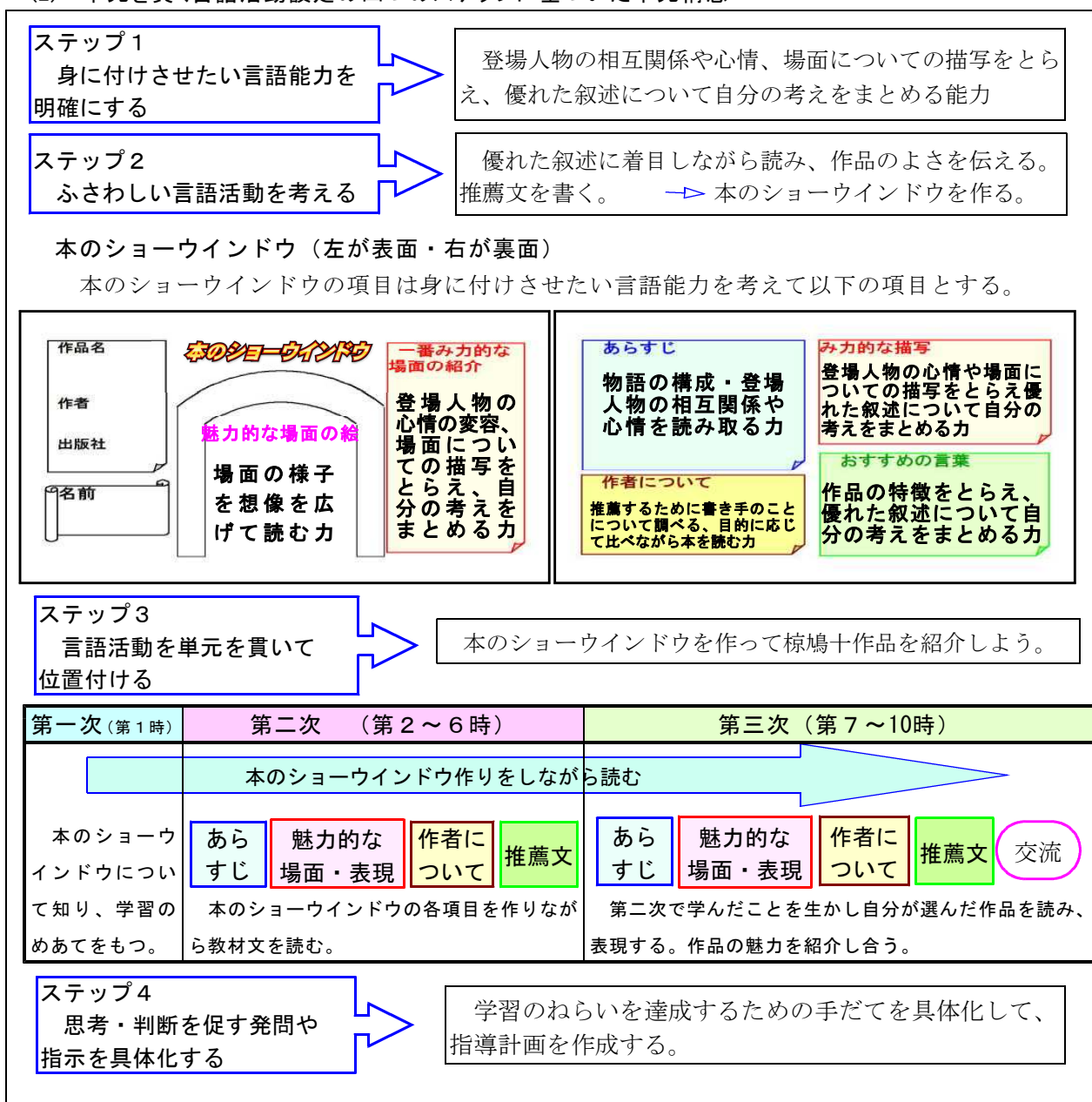
IV 研究の計画と方法

1 実践の計画と方法

(1) 授業実践の概要

単 元	生き方を見つめて読む 教材名「大造じいさんとがん」		
実践時期	平成23年10月	対象	第5学年3学級100名（3学級中2学級は担任による授業）
授 業 者	長期研修員	今泉 優理	
目 標	登場人物の行動描写や心情描写、情景描写から、登場人物の相互関係や心情をとらえ、優れた叙述について自分の考えをまとめる。		

(2) 単元を貫く言語活動設定の四つのステップに基づいた単元構想



(3) 検証計画

検証の観点	検証の方法
○言語活動単元プランに基づいた授業により、児童は授業のねらいを達成できたか。 ・単元を貫く言語活動を設定したことは、児童が読む目的を明確にし課題解決のための主体的な読みをするのに有効であったか。 ・第一次「学習課題の設定」、第二次「教材文を読む活動」、第三次「学習経験を基に表現する活動」とした学習過程は、叙述を基に想像し、自分の考えをもちながら読む力を育てるために有効であったか。	・授業分析 ・ワークシートの分析 ・児童へのアンケートの分析
○言語活動単元プラン集は、主体的に学習し叙述を基に想像して読む児童を育てる指導に有効であったか。	・教師へのアンケートの分析

2 授業実践(全10時間)

単元を貫く言語活動を設定した授業を行うことにより、叙述を基に想像して読む児童を育てることができると考え、第5学年で授業実践を行った。また、協力校第5学年の他の2クラスにおいて、同じ授業プランで授業をしていただいた。

過程	時	☆学習のねらい ○主な学習活動	支援のポイント・児童の様子
第一次 学習課題の設定	1	☆読む目的を明確にし、学習課題を設定する。 ○教師のブックトークを聞く。 ○椋鳩十作品の中から一つ選び、本のショーウインドウを作って作品の魅力を紹介しようという学習のめあてを知る。 ○椋鳩十作品を各自で読む。	ブックトークのねらい - 作品の続きが読みたくなるように作者への関心を高める(椋鳩十の作品と生い立ちの紹介)。 - 学習のイメージをもたせる(ショーウインドウの提示)。 ○ブックトークの中にクイズを入れたり、本のショーウインドウを使って作品紹介をしたりすることで、学習への意欲を高めた。 ○読書カードに、読んだ作品について魅力的な場面や表現を記入できるようにし、お薦めの本を選ぶ手がかりとなるようにした。 お話の続きが知りたいな。ショーウインドウ作り、楽しそう。 本のショーウインドウを使った、作者や本の紹介を聞いたことにより、本のショーウインドウをつくりながら作品を読んでいくという読む目的が明確になった。
	2・3	☆物語全体を読むためにあらすじをとらえる。 ○教材文を使って、本のショーウインドウ作りの仕方を学習する。 ○物語の設定をとらえながら読む。 ○物語のあらすじをまとめる。	あらすじをとらえるために必要なこと - 時 - 場 - 登場人物 - 出来事 - 登場人物の心情 物語の設定 出来事をとらえていけば、あらすじが分かるんだね。出来事を通して気持ちが変わっていくのか。 ○心情が大きく変化したところを中心に出来事をとらえると、あらすじだけでなく、心情の変化もとらえられるようになる。 ○ワークシートは表形式で短い言葉でまとめさせ、それを基に文章化していくようにした。 あらすじをとらえるには、時の流れと大きな出来事をとらえ、心情の変化を読み取る必要があることを理解し、あらすじをまとめられた。
第二次 教材文を読む	4	☆優れた叙述に着目し、叙述を基に心情をとらえる。 ○魅力的な表現をさがしながら読む。 ○情景描写の表現効果について考える。	○教材文の中から魅力的な表現を探し、情景描写を挙げている児童の考えを紹介し、全員で表現効果について考えた。 情景描写の表現効果に気付かせるために - あるのとなないのとは違うか - どんな色が出てきてどんなことを表しているか - 色彩イメージがプラスかマイナスか *教材から複数取り上げることで理解が深まる 登場人物の気持ちまで表してるなんてすてき。他にも見付けてみたいな。 情景描写の表現効果に気付き、情景と心情を想像しながら読むことができた。

第二次 （教材文のショーウィンドウ作り）	5	☆魅力的な場面を見付け、その理由を考える。 ○魅力的な場面を感じながら読む。 ○表現を基に魅力的な理由について考える。	○魅力的な場面について理由を考える際に読みの視点をもたせ、魅力的な場面についてその理由が考えられるようにした。 読みの視点 登場人物の心情がよく分かる 登場人物の関係の変化がよく分かる 場面の様子がよく分かる ○いろいろな叙述を基に心情をとらえられるように、グループで魅力的な理由を紹介し合う活動を取り入れた。 読みの視点を提示したことにより、魅力的な場面について叙述を基に想像して読むことができた。交流によって考えが深まった。 最初は理由をきかれても分からなかったけど、表現を基に想像していくと魅力的な理由が言えるようになった。
	6	☆自分なりの根拠をもって作品の魅力を伝える文章を書く。 ○作品の魅力を伝えるためのおすすめの言葉を書く。	○作品全体から感じたことや自分の心が一番動かされたことを中心に書けばよいことをモデル文を使って気付かせた。 おすすめの言葉の構成 ①物語のだいたいの内容（クライマックス場面を中心に） ②心を動かされたこと ③読むことを薦める言葉 このお話を読んだことのない人に薦めるにはどんな言葉が必要かを考えさせたり、モデル文を提示したりすることにより、根拠をもって推薦する文を書けた。 友達が「読んでみたい」と思えるように書けばいいのか。
読みの視点をもち、主体的に、叙述を基に想像して読むことができた。			
第三次 学習経験を基に表現する	7	☆学習経験を生かしてあらすじをとらえる。 ○一番気に入った作品の魅力を紹介する本のショーウィンドウのあらすじを書く。	○友達と口頭であらすじを紹介し合うことで、作品を読んでいる人にも伝えるかどうかを検討した。 心が大きく変わった出来事を中心にまとめよう。 どんな出来事があるって、どんな気持ちになったのか考えながら読もう。繰り返し読んでみたら分かったよ。 大きな出来事をとらえ、その心情の変化を中心にまとめることができた。
	8	☆魅力的な場面や表現をとらえる。 ○魅力的な場面や表現を書く。	○教材文で作った本のショーウィンドウ（児童が書いたよいものを合成して作成）を提示し、モデルとした。 読みの視点を思い出そう。 情景描写も見付かったよ。この作品のどういう表現や場面がよいところなのか、伝えるように書こう。 読みの視点を基に魅力的な場面を選び、その場面を繰り返し読むことで、魅力的な理由を説明できるように表現することができた。
（選んだ作品のショーウィンドウ作り・交流）	9	☆自分なりの根拠をもって推薦する文を書く。 ○作者について調べる。 ○おすすめの言葉を書く。	○作者について調べるには、本の後書きや見返しを調べると分かることを確認した。 おすすめの言葉は、まだ読んでいない友達が読みたくなるように書こう。 自分の好きな本を読んで、よいところなどを伝えられることができてうれしかった。 作品のよさを感じ、友達に薦める言葉を入れて、表現することができた。
	10	☆ショーウィンドウを使って交流し自分の考えを広げたり、深めたりする。 ○完成したショーウィンドウを基に友達に作品の魅力を紹介する。	○魅力的な場面を中心に紹介し合い、紹介した後は、質問をしたり感想を述べたりすることで、読みの共通点や相違点に気付けるようにした。 友達の紹介文のよさを見付けよう。自分の考えと友達の考えの同じところやちがうところはどこだろう？ 読んだことのない本を読んでみたくなった。人それぞれの気持ちが書かれていてよかった。 交流することにより、読んだ作品については、感じ方の違いに気づき、自分の考えを広げ、深めることができた。
第二次で学んだ読みの力を活用して、主体的に思考しながら作品を読み、自分の考えを表現することができた。			

V 研究の結果と考察

1 言語活動単元プラン集に基づいた授業により、児童は授業のねらいを達成できたか。

(1) 第一次「学習課題の設定」について

椋鳩十作品に興味をもたせるために、教師がブックトークを行った。作者について紹介をしたり、クイズを取り入れたりすることにより、児童は作者や作品に興味をもち、椋鳩十作品を読んでみたいという意欲が高まり、紹介された本だけでなく、題名を手がかりに興味のある動物の本を選び、夢中になって読んでいた。

ブックトークの中で、教師が作成した本のショーウインドウを使って作品の紹介をした。ショーウインドウの項目の中から作品のあらすじ、魅力的な場面やお薦めの言葉を取り上げ、本のショーウインドウについて説明をした。このことにより、児童は、椋鳩十作品を読んで本のショーウインドウ作りをするという、読む目的を明確にすることができた。さらに、教師の本の紹介の仕方に目を向けられた児童もおり、読んでみたくなるような紹介の仕方をしてみたいとの感想も見られた（資料1）。

これらのことから、ブックトークの中で本のショーウインドウを提示したことは、児童が見通しをもち、自分で選んだ作品についての本のショーウインドウを作るという読む目的をもって学習に取り組む、主体的な学習活動につながったと考えられる。

資料1 作品の紹介を聞いた感想

- ・ショーウインドウ作り、楽しそう。
- ・ショーウインドウ作りは難しそう。いろいろ書くことがあって大変そうだけど、やってみたい。
- ・大造じいさんとがんで作った後に、自分の選んだ作品で作るのならできるかな。
- ・ショーウインドウを使って先生みたいに紹介してみたい。

(2) 第二次「教材文を読む活動」について

教科書教材「大造じいさんとがん」の本のショーウインドウ作りをしながら読み進めた。本のショーウインドウの項目は単元の目標を達成するための項目を考え、1時間の授業で1項目を書けるように授業を構想した。あらすじについては、時の流れや登場人物、出来事、心情の変化を表にまとめ、表を基にあらすじを書いた。その際には、クライマックス場면을先にとらせさせ、その前後の関連する出来事を挙げていくようにするととらえやすいようであった。

魅力的な場面について考えていく中で、魅力的な情景描写を取り上げた。情景描写を魅力的な表現と感じていた児童の考えを全体に紹介した。その後、教材文の中から複数の情景描写を見付けていく活動を行った。このような活動を通して情景描写の表現効果について考えることができるようになった（資料2）。

魅力的な場面については、最初は「何となく」「理由を聞かれると難しい」と魅力的な場面についての理由を書けない児童もいた。「『すごいな』と思ったのはどのような表現からか」などのように、叙述に着目させ、叙述を基に心情や場面の様子を想像させるように声をかけた。さらに、同じ場面を選んだ児童同士で魅力的な場面について話し合った。友達の考えを聞くことにより、自分とは違った感じ方や違う叙述からも心情を考え、紹介文を書くことができた（資料3）。

資料2 情景描写について学習後の振り返り

- ・情景描写は、大造じいさんの心の中を景色で表していてすてきなあと이었습니다。
- ・情景描写というのは、文章は景色を表していても、その裏側には大造じいさんの気持ちがたくさんつまっている。描写や文章をよく読んで探してみると、大造じいさんの気持ちがよく分かりました。
- ・情景描写をよく考えると読み方も変わるなあと感じました。見付けられてうれしかったです。

資料3 魅力的な場面の紹介文

一番魅力的だなと思った場面は、おとりのがんを助けるために残雪がはやぶさと戦う場面です。なぜかという「残雪の目には、人間もはやぶさもなかった。ただ、救わねばならぬ仲間の姿があるだけだった」などという表現から、仲間のためにははやぶさに必死に立ち向かっていくという気持ちが感じられるので、この場面がいいと思います。

これらのことから、本のショーウインドウ作りをしながら教材文を読んだことは、児童が読む目的をもち主体的に学習し、表現に着目して叙述を基に心情の変化や場面の様子を想像しながら読むことにつながったと考えられる。本のショーウインドウの項目に沿って読みの視点を持ち、場面と場面を比べながら読み文章全体から内容をとらえたり、心情の変化を読み取ったりする力が本のショーウインドウを作る過程で身に付いたと言える。

(3) 第三次「学習経験を基に表現する活動」について

児童は教材文を読む学習と並行し、紹介する作品を探すために朝読書や休み時間を利用して熱心に読んでいた。読書カードの記述を基に、すぐに書きたい作品を選ぶことができた。完成した作品は5年生の廊下に展示することを話し、相手意識・目的意識をもって学習を進められるようにした。

自分で選んだ作品のショーウインドウ作りは、教材文で学習したことを生かして行った。読む目的が明確でやり方も理解していたので、各自まとめる学習を進められた。第二次で時間のかかったあらすじについては、クライマックス場面をまずとらえ、その前後の出来事を簡単に書けばよいことを思い出させると、書くことができた。なかなか書けない児童については、出来事とそのときの登場人物の心情を口頭で話すことで書くことにつなげた(資料4)。早くできた児童は、書いた文を読み直したり、友達に読み聞かせ、分かりやすい紹介文か確かめ合ったりするなど目的意識をもって学習に取り組んでいた。

魅力的な描写については、情景描写がない作品もあったので書く内容は情景描写に限定しなかった。全員が情景描写や行動描写に着目し、想像した場面の様子や心情を書くことができた(資料5)。

魅力的な場面については叙述を根拠に紹介文を書くことができた児童は33名中22名であった。教材文では根拠となる叙述を挙げられなかった児童も、叙述を基に想像して魅力的な理由について述べられた(資料6)。11名は「～の表現から」という記述はなかったが、登場人物の心情を想像し、自分なりに解釈し全員が紹介文を書くことができた(資料7)。本のショーウインドウを書くために少ない児童で3回、多い児童では10回以上作品を読んでいった。魅力的な場面を部分的に数回じっくり読んだ児童もあり、主体的に思考しながら読んでいたことが分かる。

交流は、魅力的な場面については口頭で紹介し合い、他の欄については読み合うようにした。

資料4 学習後の振り返り(第7時)

大造じいさんとがんであらすじを書いたとき、登場人物や出来事が分からないと書けないと思い、大切な場面を読み返して書いてみました。出来事をしっかりとらえられたと思います。

資料5 情景描写についての記述

「きよらかな秋の月がでていた」
これは、たくさんの敵をたおした後の描写です。たくさんの敵をたおした主の気持ちも、すっきりとしていることが分かりました。

資料6 魅力的な場面についての記述

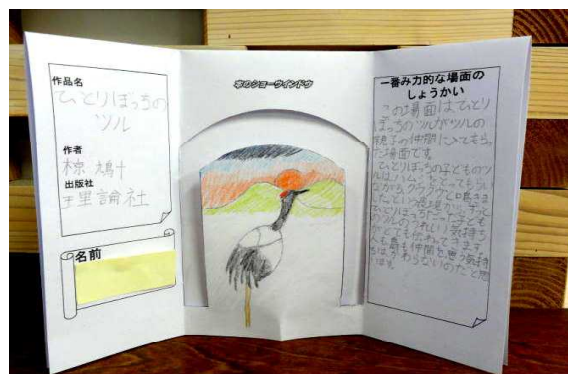
★教材文「大造じいさんとがん」

残雪が飛び去っていくのをいつまでもいつまでも見守っていた場面。大造じいさんが見守っている時の気持ちを自然と考えられるので魅力的です。また戦いたいという気持ちが分かります。

★自分で選んだ作品「子ジカのホシタロウ」

この場面はホシタロウが野良犬と戦って助かったときの場面です。「モモ子はホシタロウの姿が見えると、はな子さんのかたのよにのったりして、はしゃいでいました」という表現からモモ子のうれしい!という気持ちが分かります。私は2匹の友情があるからだろうなと思いました。

資料7 完成した本のショーウインドウ(表面)



資料8 学習後の振り返り(第10時)

- ・本のショーウインドウを使って紹介することで、相手にうまく伝えることができました。しっかりと気持ちや行動を読み取ることが大切だと分かりました。
- ・自分の感想をうまく伝えられてうれしかったです。今まで読書感想文で感じたことをうまく書けなかったけど、本のショーウインドウを基にすれば書けると思いました。

本のショーウィンドウを使い自分のお気に入りの作品を紹介することによって、自分の感じたことを伝える楽しさを実感していた。自分の考えと友達の考えの違いに気付き、自分の考えを広げ深めることにもつながった。さらに本のショーウィンドウ作りを通して文学的な文章を読む力が付いたことも実感でき、その力を他の学習にも生かせると感じている児童もいた（前頁資料8）。

実践前と実践後のアンケート調査の結果からも、物語全体から登場人物の心情の変化をとらえ、変化の理由を考えながら読むことができるようになったと感じている児童が増加していることが分かる（図5）。さらに、26人の児童が物語の内容に対して自分の考えをもちながら読むと答えており、読みの力を身に付け、主体的に思考しながら作品を読んでいることが分かる。

これらのことから、第三次では、第二次の教材文の学習で身に付けた読みの力を活用して、主体的に思考し、自分の考えを表現することができたと考えられる。

以上のことから、言語活動単元プラン集に基づいた授業により、児童は叙述を基に想像して読む力を身に付けることができたと言える。

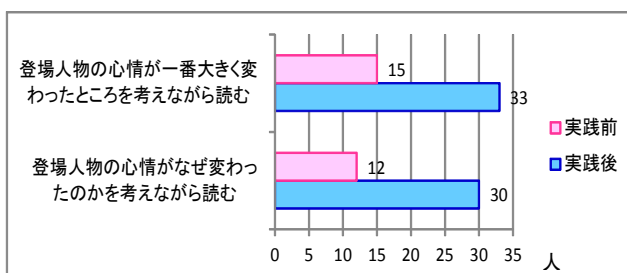


図5 物語文を読む時に気を付けていること(児童33人)

2 単元プラン集は、主体的に学習し叙述を基に想像して読む児童を育てる指導に有効であったか。

同じ単元計画で授業をした教師からは、単元を貫く言語活動をどのように設定するのかが分かり、単元を貫く言語活動を設定したことは児童の主体的な学びにつながったとの評価を得られた。児童は魅力的な場面や描写を見付けながら読んでいく過程の中で、登場人物の心情の変化や情景も想像を広げ、読み取れていた。本のショーウィンドウには自分が魅力的だと思った場面や描写を記入していくため、児童は主体的に読み、考えを率直に表現する楽しさを感じ、本のショーウィンドウができあがった達成感を感じていたということであった。これらのことから本のショーウィンドウ作りという言語活動を単元を貫いて設定したことが、叙述を基に想像して主体的に読むことの手だてとして有効であったと言える。

このようなことから、単元を貫く言語活動を設定した単元プラン集は、児童が主体的に学習し、叙述を基に想像して読む力を育てるために有効に活用できると言える。

VI 研究のまとめ

1 成果

- 文学的な文章の学習において、単元を貫く言語活動の設定について、どのように設定していけばよいのか、基本的な考え方を明確にすることができた。
- 本のショーウィンドウの各項目に沿って読む学習を行ったことにより、読みの視点をもちながら、叙述を基に想像して読む力を育成することにつながった。

2 課題

- 単元を貫く言語活動を1単位時間ごとの授業にどのように具体化していくかが、難しい。身に付けさせたい言語能力にふさわしい言語活動を1単位時間ごとの授業にどのように具体化していくのかは、教材文の特徴や児童の実態に関わるので、パターンを増やしていく必要がある。

<参考文献>

- ・文部科学省 『言語活動の充実に関する指導事例集【小学校版】』 教育出版（2011）
- ・水戸部 修治 編著 『小学校国語科 言語活動パーフェクトガイド』 明治図書（2011）
（担当指導主事 新井 俊一）